

【専門分野 I】

科目名 看護学概論		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
<p>【概要】 看護の基本となる概念を理解し、看護学に興味をもち、看護の本質を深く追求する姿勢を養うとともに、専門職として看護のあり方を考える機会とする。</p>			
<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の定義、法律、要素、役割機能を通して、看護とは何かを考える。 2. 看護実践に役立つ看護理論について理解し、看護とは何かを科学的に追求する姿勢を養う。 3. 看護の対象である人間を理解する看護的視点について学び、対象理解に役立てる。 4. 健康の概念を理解し、健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に果たす看護の役割を考える。 5. 専門職の備えるべき要件を理解し、専門職としての看護のあり方を考える。 6. 看護活動の場を理解し、保健医療福祉サービスにおける看護の果たす役割について考える。 			
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何か・・・いろいろな定義からみる看護 2. 専門職に求められるもの・・・専門職としての看護、看護者の倫理綱領 3. 看護理論と看護実践・・・看護理論の意義と変遷、主な看護理論の概観、 4. 看護の対象としての人間・・・WHO の健康の定義 健康の概念 障害とは 5. 看護の提供者・・・看護職の養成制度、キャリア開発 6. 看護の提供のしくみ・・・提供の場、看護をめぐる制度と政策、看護職者の倫理 7. これからの社会と看護 			
<p>【教授方法】 一斉講義 グループワーク</p>			
<p>【使用テキストと参考文献】 使用テキスト：講義時 必ず持参 ・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院</p>			

参考文献：

- ・ヴァージニア・ヘンダーソン著:看護の基本となるもの 日本看護協会出版会
- ・フローレンス・ナイチンゲール著:看護覚え書 現代社
- ・新系統 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護学技術 I メヂカルフレンド社
- ・中範囲理論入門 第2版 日総研
- ・改訂3版 ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 日総研

【評価方法】

客観試験・レポート等

【備考】

科目名 基礎看護技術 I A		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】			
I A-1 【技術の概念、環境】 看護技術は対象に対する自身の関心や気遣い、慈しみの気持ちや配慮を「表現する技術であり」、状況が常ならない中で表現される技術は、その時々において工夫と応用を求められる「熟練と修練を要する技術である」。看護技術を専門技術として位置づけ、看護師を目指す皆さんに、この看護技術の必要性和特徴を教授し、看護技術を修得していく上での指針とできるよう構成した。また、看護技術としてこの講義では療養生活環境調整の技術を学ぶ。			
I A-2 【バイタルサイン】 疾病の診断や治療の指標、看護行為の基準とする上で必要なバイタルサインを理解し、正しい測定ができるための知識・技術を学ぶ。「体温」「呼吸」「脈拍」「血圧」の測定が正確で確実に行えるための技術を身につける。バイタルサイン測定は2年次の「フィジカルアセスメント」をおこなうための技術として位置づける。			
【目標】			
I A-1 【技術の概念、環境】			
1. 技術の概念について理解し、看護技術の特殊性と必要性について理解する。			
2. 人間の健康と環境との関係を理解し、対象に応じた療養生活環境調整の援助ができる能力を養う。			
I A-2 【バイタルサイン】			
1. バイタルサインの概念を学習することにより、看護におけるバイタルサインの重要性を認める。			
2. バイタルサインの測定技術が安全・安楽、正確に行えるための原則および方法を配慮しながら、バイタルサインの測定を実践する。			
3. バイタルサインが人間の状態を反映していることに関心を示す。			
4. バイタルサインの観察の結果から、対象に必要な看護を列挙する。			
5. バイタルサイン測定中に対象が感じる気持ちや感覚に気づきを示す。			
【授業内容】			

<p>I A-1 【技術の概念、環境】</p> <p>I. 看護技術の概念</p> <p>II. 環境</p> <p>1. 人間を取り巻く環境</p> <p>2. 健康の維持や疾病回復のために環境が果たす役割</p> <p>3. 療養生活における望ましい環境</p> <p>III. ベッドメイキングの実際</p> <p>IV. 臥床患者のシーツ交換の実際</p> <p>V. モーニングケアとイブニングケア</p> <p>I A-2 【バイタルサイン】</p> <p>I. バイタルサインの意義</p> <p>バイタルサインの観察の必要性</p> <p>II. 体温の観察の必要性</p> <p>体温の正常と異常、変化の判断</p> <p>III. 呼吸の観察の必要性</p> <p>呼吸の正常と異常、変化の判断</p> <p>IV. 循環状態の観察の必要性</p> <p>血圧の正常と異常、変化の判断</p> <p>脈拍の正常と異常、変化の判断</p> <p>V. バイタルサインの測定技術</p>
<p>【教授方法】</p> <p>一斉講義 デモンストレーション 演習 グループワーク</p>
<p>【使用テキストと参考文献】</p> <p>新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社</p> <p>新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</p> <p>看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア</p> <p>看護がみえる Vol. 2 基礎看護技術 メディックメディア</p> <p>フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア</p>
<p>【評価方法】</p> <p>客観テスト（定期テスト） 参加度</p> <p>I A-1、I A-2 それぞれ 100 点のテストし、それぞれ 60 点以上を持って単位認定とする。</p>
<p>【備考】</p> <p>事前課題あり</p>

科目名		担当者	実務経験
基礎看護技術 I B		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
<p>【概要】</p> <p>I B-1【安全安楽・姿勢体位】(12 時間)</p> <p>看護における安全管理の必要性を理解し、対象・家族・医療従事者の安全を守り、事故および感染を未然に防止するための方法について学ぶ。また、人間の活動における基本的な姿勢や体位について理解し、対象に応じた援助を安楽に行うための能力を養う。この単元では、手洗い・体位変換・車椅子やストレッチャーの移動移送の技術を学ぶ。</p> <p>I B-2【衣生活・身体の清潔】(18 時間)</p> <p>人間にとっての衣生活・身体の清潔の意義を理解し、対象に応じた援助を行うための能力を養う。この単元では、寝衣交換・身体各部の清潔の援助技術について学ぶ。演習では、お互いに患者役を体験し、患者の立場に立って援助するための配慮や思いやりのある行動について考える。</p>			
<p>【目標】</p> <p>I B-1【安全安楽・姿勢体位】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における安全・安楽の意義と重要性について理解する。 2. 看護医療事故の要因とその防止対策について理解する。 3. 感染予防の重要性とスタンダードプリコーションの概念を理解し、感染予防のための方法がわかる。 4. 体位の種類とその特徴を理解し、健康障害が姿勢・体位に及ぼす影響と援助の必要性を理解する。 5. ボディメカニクスの意義と原理について理解し、ボディメカニクスを活用した体位変換の援助の方法がわかる。 6. 褥瘡の発生のメカニズムを理解し、予防するための方法を理解する。 7. 車椅子・ストレッチャーの移乗・移送の目的と原則を理解し、安全で安楽な移乗移送の方法がわかる。 <p>I B-2【衣生活・身体の清潔】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての衣服着用の意義と、衣生活の援助の必要性を理解する。 2. 衣服(病衣)交換の原則と注意事項を理解し、衣服(病衣)交換の方法がわかる。 3. 健康な生活における身体の清潔の意義と重要性を理解する。 			

4. 口腔、皮膚、粘膜に関する解剖生理学の知識を活用しながら、身体各部の清潔の援助について目的・原則・注意事項を理解する。
5. 対象に合わせた方法を選択し、安全安楽に清潔の援助を実施する方法がわかる。

【授業内容】

I B-1【安全安楽・姿勢体位】

1. 看護における安全・安楽の意義
2. 看護医療事故の発生のメカニズムと事故防止対策
3. 感染予防とスタンダードプリコーション
4. 姿勢の安定性と体位の種類・特徴
5. ボディメカニクスの原理と応用
6. 褥瘡の発生と予防
7. 体位変換の援助
8. 車椅子・ストレッチャーの移乗・移送の援助

I B-2【衣生活・身体の清潔】

1. 衣服着用の意義と疾病や入院による衣生活への影響
2. 病衣交換の援助
3. 身体の清潔を保つ意義
4. 口腔の清潔の援助
5. 入浴の援助
6. 清拭の援助
7. 部分浴(手浴・足浴)の援助
8. 洗髪の援助
9. 陰部洗浄の援助、その他

【教授方法】

一斉講義 デモンストレーション 演習

【使用テキストと参考文献】

系統看護学講座 医療安全 看護の統合と実践2, 医学書院
 新体系看護学全書 11 巻 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ, メヂカルフレンド社
 新体系看護学全書 12 巻 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社
 看護が見える vol.1 基礎看護技術 メディクメディア

【評価方法】

筆記試験 レポート 参加度

I B-1、I B-2 それぞれ 100 点のテストを実施。それぞれ 60 点以上を持って単位認定する。

【備考】

講義開始時に講義概要の詳細を提示する。

科目名		担当者	実務経験
基礎看護技術 I C		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期	30 時間/1 単位/ 15 回	講義・演習	
【概要】			
I C-1【食事・活動と休息】			
<p>食事の意義を理解し、栄養と食行動の観察と把握ができるための基礎的知識を学ぶ。栄養と食行動に対する援助では、健康的な食生活への助成に関する指針を学ぶ。また、食事介助の実際を体験的に学び、より良い食事援助について考える。また、経口摂取への援助、非経口栄養摂取についてもその知識を学ぶ。さらに人間の健康に不可欠な睡眠・休息・活動について理解し、対象に応じた援助を行うための基礎的知識について教授する。</p>			
I C-2【排泄】			
<p>人間が排泄をすることの意義と、それに伴う感情を理解することで、対象が気持ちよく排泄するための能力を養う。排泄の意義を理解し、自尊心を傷つけない安全・安楽・自立をめざした気持ちよい排泄を目指した援助を学ぶ。</p>			
【目標】			
I C-1【食事・活動と休息】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食事の意義を理解し、対象に応じた援助を行うための能力を養う。 2. 人間の健康に不可欠な睡眠・休息・活動について理解し、対象に応じた援助を行うための能力を養う。 			
I C-2【排泄】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄の概念を学習することにより、看護における排泄の援助の重要性を理解する。 2. 排泄の援助の技術を安全・安楽・自立を目指して行えるための原則に沿って、排泄の援助を実践する。 3. 排泄物や排泄の状態が人間の身体面・精神面・社会面を反映していることがわかる。 4. 排泄物の観察の結果や排泄の状態より、対象に必要な看護を理解する。 5. 排泄の援助中に対象が感じる気持ちや感覚に気づき、援助につなげる。 			
【授業内容】			
I C-1【食事・活動と休息】			
I. 食事〔栄養と食行動〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事の意義 2. 栄養と食行動の観察と把握 3. 栄養と食行動に対する援助〔食事および非経口的栄養摂取法〕 			

II. 活動

- 1.活動の意義
- 2.活動状態の観察と把握。
- 3.活動に対する援助と看護師の役割

III. 休息〔睡眠と安静〕

- 1.休息の意義
- 2.安静に対する看護師の役割
- 3.睡眠に対する援助と看護師の役割

I C-2 【排泄】

1. 排泄の意義
2. 排泄のメカニズム
3. 排泄物・排泄状態の正常・異常
4. 排泄に関するアセスメント
5. 自然な排泄(尿・便)を促すための援助
6. 排泄に異常があるときの援助
(失禁があるひとへの援助、浣腸・摘便、導尿、尿・便器の介助)
7. 吸引

【教授方法】

講義 ビデオ デモンストレーション 演習

【使用テキストと参考文献】

新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社
新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社
看護が見える vol.1 基礎看護技術 メディクメディア

【評価方法】

客観テスト(小テスト・定期テスト) レポート
IC-1、IC-2 ともに 100 点のテストとし、それぞれ 60 点以上を持って単位認定とする。

【備考】

IC-2 事前課題及び DVD 視聴(必須)あり、後日提示する。

科目名 基礎看護技術 I D		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】			
<p>この科目は、基礎看護学実習 I-2 の体験を想起しながら、看護における観察・記録・報告の重要性、コミュニケーションの方法について学ぶ。また、グループワークを取り入れ、その中で自分自身の考え方や感情が観察やコミュニケーションに反映することに気づき、幅広い視野で考えられるようにする。</p>			
I D-1 【観察・記録・報告】（16 時間）			
<p>観察の必要性を理解し、看護に必要な情報を正しく収集する能力を養う。また、看護を行うために必要な記録・報告の要素を理解し、その重要性を認識する。</p>			
I D-2 【コミュニケーション技術】（14 時間）			
<p>看護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、効果的なコミュニケーションを行うための能力を養う。</p>			
【目標】			
I D-1 【観察・記録・報告】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における観察の重要性を理解し、的確な観察するための方法がわかる。 2. 看護記録の要素を理解し、看護における記録の重要性を認識する。 3. 正確に報告するための方法を理解し、看護における報告の重要性を認識する。 			
I D-2 【コミュニケーション技術】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの概念と看護におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 2. 対象に合わせた効果的なコミュニケーションのための知識、技術を理解する。 3. コミュニケーションの評価の意義を理解し、プロセスレコードの分析方法がわかる。 4. 1～3を通して、人間を対象とする専門職業におけるコミュニケーションの重要性を認め、自己の課題がわかる。 			
【授業内容】			
I D-1 【観察・記録・報告】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における観察の意義 2. 看護における記録の意義および目的 3. 看護記録の構成要素と記録様式・記載基準 4. 報告の意義および目的 			

5. 報告の種類と実際

ID-2【コミュニケーション技術】

1. コミュニケーションの概念
2. 看護におけるコミュニケーションの意義
3. コミュニケーション技法
 - 1) 聴く
 - 2) 理解する
 - 3) 対応する
 - 4) 効果的コミュニケーション技術
4. 事例検討／演習
5. 看護実践とコミュニケーションの評価

【教授方法】

講義 グループワーク 演習

【使用テキストと参考文献】

ID-1【観察・記録・報告】

新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社

ID-2【コミュニケーション技術】

新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I, メヂカルフレンド社

【評価方法】

筆記試験 参加度 課題の提出

ID-1.ID-2ともに100点のテストとし、それぞれ60点以上を持って単位認定とする。

【備考】

【コミュニケーション技術】 事前課題あり。後日提示する。

科目名		担当者	実務経験
基礎看護技術 I E		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次・前期・後期	30時間/1単位	講義・演習	
【概要】			
<p>学生が患者・看護師となり、患者設置に基づき援助を実施する過程を通して、基本的看護技術を修得するとともに、態度を身につける。</p>			
【目標】			
<p>1. 安全・安楽で確実な基本的看護技術を修得する。 2. 患者により良い援助を行う態度を身につける。</p>			
【授業内容】			
<p>《演習》 基本ベッド 臥床患者のシーツ交換 バイタルサインの測定 体位変換 移乗・移送 寝衣交換 口腔の清潔 足浴 清拭 洗髪 《技術試験》 ・ベッドメイキング ・バイタルサインの測定 ・部分清拭 ・洗髪</p>			
【教授方法】			
<p>《演習》 学生が患者・看護師となり、看護技術を修得する。 グループ指導 《技術試験》 患者設置に基づき援助を実施し、客観評価を受ける。</p>			
【使用テキストと参考文献】			
<p>基礎看護技術 I A、I B、I C、I D のテキスト、資料、講義ノート等 『基礎看護技術 I E 学習方法』 入学後印刷物を配布します。</p>			
【評価方法】			
<p>演習：基礎看護技術 I E(演習)の出席 技術試験：4回の技術試験の合格 60点以上をもって単位認定となる。</p>			
【備考】			

科目名 基礎看護技術ⅡA		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】			
ⅡA-1【診察・検査と看護】			
診察・検査を受ける対象の不安や苦痛を取り除き、安全・安楽かつ正確に受けられるようにするための看護師の役割や援助方法を学ぶ。また、検査では主に検体検査を取り上げ、必要物品を見ながら検体の採取方法や取り扱いについて理解する。			
ⅡA-2【創傷ケア・無菌操作】			
創傷管理に必要な基礎知識と、創傷処置を受ける患者の看護について学ぶ。滅菌された機器・衛生材料の滅菌状態を保ちながら取り扱うことの意義と、創傷処置に必要な滅菌物の取り扱い方法を身につける。また、包帯法の目的・原則・巻き方について学ぶ。			
ⅡA-3【与薬、薬物・輸液療法と看護】			
薬物療法の意義や与薬、薬物・輸液療法・輸血に関する基礎知識と、看護師の役割を学ぶ。与薬・輸液療法・輸血の種類や目的・方法・看護を学ぶとともに、安全・安心で確実な与薬や看護師の責任について考える。			
【目標】			
ⅡA-1【診察・検査と看護】			
1. 安全・安楽に正確な診察が受けられるよう、診察の目的・方法および看護について理解する。			
2. 安全・安楽に正確な検査が受けられるよう、検査の目的・方法および看護について理解する。			
ⅡA-2【創傷ケア・無菌操作】			
1. 創傷の治癒過程および基本的な創傷処置について学び、創傷処置を受ける患者の看護を理解する。			
2. 包帯法の目的および基本的な巻き方を理解する。			
3. 無菌操作の目的および滅菌物の取り扱い方法を理解する。			

II A-3【与薬、薬物・輸液療法と看護】

1. 薬物の作用機序や体内動態など、薬物療法の基本を理解する。
2. 薬物療法の目的と意義を理解し、安全で適切な与薬を行うための注意点を学ぶ。
3. 与薬の種類と、それぞれの目的・方法・留意点および看護について理解する。
4. 注射に関する基本的事項と、各種注射法とその留意点について理解する。
5. 輸血療法に関する基本的事項と、その留意点について理解する。
6. 与薬に伴う危険性を認識し、与薬に対する責任を自覚する。

【授業内容】

II A-1【診察・検査と看護】

- I. 診察時の看護: 診察の目的・方法・看護師の役割・準備・看護
- II. 検査時の看護: 検査の目的・種類 検査における看護師の役割 検体の取り扱い上の注意点 検体検査: 尿検査・便検査・喀痰検査・腰椎穿刺・血液検査 (注射器・注射針・駆血帯の取り扱い)

II A-2【創傷ケア・無菌操作】

- I. 創傷の治癒過程: 創傷の定義・分類と治癒方法・治癒過程のメカニズム・治癒過程に影響を与える因子 治癒過程から見た管理方法の基本
- II. 包帯法: 包帯法の定義・目的・種類 原則 身体各部に合わせた適切な巻き方
- III. 無菌操作・創傷ケア: 原則・注意点・方法・滅菌物の取り扱い方法 (鑷子・鑷子立てなど) 創傷ケアの実際: 必要物品・環境・患者準備・創傷部位の観察、処置の方法など

II A-3【与薬、薬物・輸液療法と看護】

- I. 薬物療法と看護: 薬物療法の定義・目的・看護師の役割・各職種の実務と責任と権限・患者のニーズと看護
- II. 与薬の基礎知識: 薬物の定義・名称・取り扱い・体内動態と薬効
処方箋・添付文書・保管
- III. 与薬の実際
 1. 内用・外用薬の安全: 安全・安心な内用・外用薬の与薬のための確認・安心できる説明
 2. 内用薬の種類・吸収経路・与薬時間・目的・必要物品・与薬方法
 3. 外用薬の種類・吸収経路・目的・必要物品・与薬方法
 4. 注射の種類・吸収経路・吸収速度、注射器具
 5. 注射と安全: 法律・看護学生が行える注射の範疇・医療事故と判例
利点と欠点・危険性
 6. 安全・安心な注射: 確認・清潔・感染予防・安心できる説明と態度・廃棄物の処理など
 7. 各種注射の方法と援助: 基礎知識・注射部位・必要物品・注射方法

8. 輸液療法を受けている患者の看護

9. 輸血療法を受けている患者の看護

【教授方法】

一斉講義 デモンストレーション 技術演習

【使用テキストと参考文献】

ⅡA-1【診察・検査と看護】

新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院

看護が見える vol.2 臨床看護技術 メディクメディア

ⅡA-2【創傷ケア・無菌操作】

新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院

看護が見える vol.1 基礎看護技術 メディクメディア

ⅡA-3【与薬・薬物・輸液療法と看護】

新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院

看護が見える vol.1 基礎看護技術 メディクメディア

看護が見える vol.2 臨床看護技術 メディクメディア

村上美好 監修 写真でわかる輸血の看護技術 インターメディア

【評価方法】

筆記試験

ⅡA-1.2.3ともに100点のテストとし、それぞれ60点以上を持って単位認定とする。

【備考】

・「与薬・薬物・輸液療法と看護」では、事前に「与薬」「注射」のビデオやDVDを視聴し自己学習して臨む。

* ビデオやDVDは教務室にあるので、声をかけてください。

科目名 基礎看護技術ⅡB		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期～後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 看護過程（講義）：基礎看護学で学んだ援助を実践する上での思考過程をもとに、臨床で看護実践に活かされる看護過程展開の方法について学ぶ。 看護過程の展開（演習）：事例患者を通し、健康レベルに応じた看護を実践できるよう看護過程の展開の仕方を学ぶ。グループワークを通して、主体的学習力・統合力を養う。			
【目標】 ⅡB-1【講義】 （10時間） 1. 看護過程の役割と意義を理解する。 2. 看護過程の構成要素について理解する。 3. 看護過程を展開するための基礎的知識を理解する。 4. 看護過程発展と看護診断について理解する。 ⅡB-2【演習】 （20時間） 1. 講義をもとに、事例患者を通して、看護過程の展開の仕方を理解する。 2. 演習での学びと、今後の実習に向けて自己の課題と方向性を明らかにする。			
【授業内容】 ⅡB-1【講義】 1. 看護風・医師風・普通風の問題解決過程 2. 講義・看護過程・実習の関連 3. 看護過程の各段階に必要な能力 4. 看護過程の構成要素@看護過程を展開するための知識 5. 看護過程発展・・・看護診断の理解 ⅡB-2【演習】 事例患者を通して、アセスメント～計画立案までのプロセスをたどる。			
【教授方法】 一斉講義 個人ワーク グループワーク			
【使用テキストと参考文献】 ・新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 ・看護過程の解体新書 学研			
【評価方法】 ⅡB-1:筆記試験 ⅡB-2:グループワークへの参加度			
【備考】 看護過程は、看護を実践するための道具・ツールです。既習の講義内容を十分に活用し、対象に必要な看護が実践できるよう一人ひとりがしっかりと取り組むことを期待します。 グループダイナミクスを発揮し、疑問点を解決しながら一緒にすすめていきましょう。			

科目名		担当者	実務経験
基礎看護技術ⅡC		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】			
<p>看護を行うには、対象の身体状態を正確に観察でき、正常と異常がわかり、生活への影響を考慮することが必要になる。本講義では、対象の状況についてアセスメントしていくために必要となる情報を適切に判断し、実際に自身で収集できる基本的な技術を修得する。また、患者の状態が正常か異常かを判断するだけでなく、なぜ異常が起こっているのかも考え、今後どのように対処するのかを考える力を講義や演習を通して身につける。</p>			
【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的がわかる。 2. 人体の構造・機能に関する知識をもとにフィジカルアセスメントの根拠となる知識を持つ。 3. フィジカルアセスメントの結果、患者に起こっていることがいえ、必要な看護を列挙できる。 4. フィジカルイグザミネーションの基本的技法が実践できる。 			
【授業内容】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの概念 2. フィジカルイグザミネーションの基本的技法 3. 全身状態・全身の外観のフィジカルアセスメント 4. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 5. 循環器系のフィジカルアセスメント 6. 腹部のフィジカルアセスメント 7. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 8. 中枢神経系のフィジカルアセスメント 			
【教授方法】 一斉講義 演習 グループワーク			
【使用テキストと参考文献】			
<p>新体系看護学全書11巻 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 看護が見える Vol.3 フィジカルアセスメントがみえる メディクメディア</p>			
【評価方法】			
筆記テスト(定期テスト) 事前学習・課題提出 授業への参加度			
【備考】			
事前課題あり			

科目名 臨床看護総論		担当者	実務経験
		専任教師 認定看護師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 人間の健康は流動的でダイナミックに変化する。人間の健康を総合的に理解し、対象が自ら健康状態を回復・維持するよう支援するために必要な知識を学ぶ。また、生命の危機的状況にある対象の看護について学ぶ。			
【目標】 1. 急性期、回復期、慢性期の対象の特徴を理解する。 2. 急性期、回復期、慢性期の対象の課題と看護を理解する。			
【授業内容】 1. 疾病と回復過程 2. 急性期、回復期、慢性期とは 3. 急性期、回復期、慢性期の対象の身体的・精神的・社会的特徴 4. 急性期、回復期、慢性期の対象の課題 5. 急性期、回復期、慢性期の対象への看護 1) 患者へのケア 2) 家族へのケア 3) チームの連携 6. 急性期、回復期、慢性期の看護を実践するために必要な理論・知識 1) 生命の危機的状況 2) 廃用症候群 3) 障害の概念と障害受容過程 4) セルフケア 5) 疼痛(急性痛)			
【教授方法】 講義 DVD 視聴			
【使用テキストと参考文献】 系統看護学講座 専門Ⅰ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学4 医学書院 経過別看護 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学4 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院			
【評価方法】 筆記試験 参加度 担当者、それぞれ100点のテストとし、それぞれ60点以上を持って単位認定とする。			
【備考】急性期の看護に「救急看護」を含む			

科目名 基礎看護学実習 I		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次	45時間/1単位	実習	
【概要】 看護を実践するための思考過程を修得するとともに、体験を通して看護について考える。			
【目標】 基礎看護学実習 I - 1 看護の対象を知ると共に看護について考え、今後の学習の方向性を明確にする。 基礎看護学実習 I - 2 病院における看護の対象を理解する。			
【授業内容】 基礎看護学実習 I - 1 1. 患者について知る。 2. 入院環境を知る。 3. 看護師が行っていることを知る。 4. 看護について考える。 5. 学習の方向性を明確にする。 基礎看護学実習 I - 2 1. 情報収集・意味づけを行い、受持ち患者を理解する。 2. 看護師に必要な基本的態度を身につける。 3. 看護について考える。			
【教授方法】			
【使用テキストと参考文献】			
【評価方法】 実習レポート 実習評価表 出席時間			
【備考】			

科目名		担当者	実務経験
基礎看護学実習Ⅱ		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
1年次	90時間/2単位	実習	
【概要】			
看護の対象を総合的に理解し、看護を実践するための思考過程を修得するとともに、体験を通して看護について考える。			
【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 受持ち患者の疾病と発達段階について理解する。 2. 意味づけのプロセスをたどり受持ち患者について理解する。 3. 受持ち患者への援助を実践する。 4. 看護師に必要な基本的態度を身につける。 5. 基礎看護学実習を振り返り、学びを明らかにするとともに看護について考える。 			
【授業内容】			
<p>患者への援助を実践するために必要な、基礎的知識・技術・基本的態度を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集・意味づけのプロセスをたどって受持ち患者を理解する。 2. 受持ち患者への援助を実践する。 3. 看護師に必要な基本的態度を身につける。 4. 看護について考える。 			
【教授方法】			
【使用テキストと参考文献】			
【評価方法】			
実習評価表(実習レポートを含む) 出席時間			
【備考】			